

中東言語を多くの子どもたちへ

大久保図書館の多文化紹介活動を通して

富澤規子

今年2026年7月25－26日開催のアラビア語絵本おはなし会「アラブのヤシの木」が無事終了いたしました。新宿区立大久保図書館で2015年から毎年開催されている「アラブのヤシの木」は酷暑にも関わらずコンスタントな来場者に恵まれていたイベントです。今年も親子連れだけでなく、多言語学習を趣味とするドイツの方も訪れ、賑やかに、あるいは情報交換などして楽しい二日間を過ごしました。

2026年現在、日本国内では急増する外国人労働者や観光客のなかでも中東系の人々との摩擦が取りざたされ、一部のソーシャルメディアのなかでは排他主義やヘイトスピーチの対象になっています。

必ずしも好印象だけを持たれているとは言い難い中東の言語、中東文化の紹介を、公共図書館で企画開催し多くの子供たちへ届ける活動の意義とはどこにあるのでしょうか。

2011年に大久保図書館副館長として着任し、同年9月から館長として通常の図書館運営だけでなく、数多くのおはなし会や展示を企画開催してきた米田雅朗（よねだ まさお）氏にお話を伺いました。

一大久保図書館の外国語図書で、概ね蔵書数が多い言語から順にお教えてください。

上位10か国で、①韓国語、②中国語、③英語、④ネパール語、⑤タイ語、⑥スペイン語、⑦ドイツ語、⑧フランス語、⑨タガログ語、⑩ベトナム語の順になります。

—おはなし会や展示会で、概ね開催回数の多い言語から順にお教えてください。

韓国語、中国語、英語、アラビア語、タガログ語、タイ語、ミャンマー語など。

—最初のアラビア語おはなし会は2015年8月で、過激派組織「イスラーム国」（ISIL）による日本人質殺害事件の記憶がまだ新しい頃、アラブ中東に対するネガティブイメージが蔓延していました。それにも関わらず、アラビア語のおはなし会開催を試して頂いた時のご心情や狙いなどお聞かせください。

何十年も前の話ですが、ラーメン屋で、たまたまイランの男性と席が隣になりました。もちろんイスラム教です。日本語も流ちょうで、フレンドリーにおしゃべりをしたのですが、友だちを戦争で亡くし、とても悲しい心情を吐露されました。その時、個人的にイスラム教の人とても平和的な人だと感じました。わたしの知る限り、イスラム教は平和的な宗教であり、そもそもどの宗教も平和を望んでいるはずであり、戦争をしたい人間などいるはずがありません。自分なりに、中東の方々への正しい認識が必要だと感じました。それには「文化」だと。「文化」の面から、理解を広げる必要があると思いました。



2015年の「アラブのヤシの木」

―企画の認可をくださる中央図書館からは、2015年の最初の開催に関してのご注意やご意見などありましたか？

ありません。公共図書館には「文化」の情報を発信する責務があります。それは国籍等に左右されません。中央図書館も、開催については受け入れていただきました。

―国際情勢的に困難な問題を抱えた地域の言語を取り扱う際に、公共図書館として留意している点などありましたら教えてください。

どこの国にも素晴らしい文化があります。その文化を否定することは、人間としてあってはならない行為だと思います。その国の文化に敬意をもって臨む、尊重する、違いを認めていくという、前向きな姿勢が大事であると考えます。

―来場者からの反応はいかがでしたか？

先ほどの「文化」という視点から申し上げれば、大人も子どもも、アラブの民族衣装の試着とアラビア文字で自分の名前を書いてみようという、このふたつがたいへんブレイクしたことが、とても印象に残りました。特に、お子さんがアラビア文字の魅力にはまって、終了時刻を過ぎても、いつまでもアラビア文字で、いろいろな言葉を書いていた姿は、今でも覚えています。

―また、二年目の開催を決めて頂いた理由などありましたらお願いします。

一年目の盛りあがりを目の当たりにして、これを一回限りで終わらせてはもったいないと思いました。迷うことなく、次の年も続けてやろうと決めました。

―ペルシャ語おはなし会は何年からですか？ また開催に至るまでのエピソードをお聞かせください。

2018年8月18日(土)が第1回です。2016年11月にEテレさんの「TOKYO2020 みんなの応援計画」という番組で、大久保図書館のビブリオバトルが紹介されました。実は、これは知る人ぞ知る、2017年10月に放映された「アイ アム ア ライブラリアン」の前身番組です。視聴者の方から、読書会に参加してくださいと声をかけられました。16年の年末だったと思います。この頃は、まだ今ほど忙しくなく、声をかけられたらどこでも顔を出しましたので、会場になっているお店に行きました。このお店は、絵本が飾ってあり、店長さんも絵本が大好きという方で、ここに愛甲さんがゲストとして参加されていました。話の流れで、ペルシャ語で詩を朗読されました。あとは想像がつくかと思いますが、速攻で名刺交換をして、ぜひ図書館でペルシャ語のおはなし会を！ということになって、18年8月に実現しました。



2018年ペルシャ語のおはなし会

—大久保図書館が最初に大手メディアにクローズアップされたのは2017年 NHK 放送 ETV 特集「アイ アム ア ライブラリアン ～多国籍タウン・大久保～」です。こちらの反響をお教えてください。

一夜にして状況が180度変わりました。それまでは、話題にされることのない「無風」の図書館でしたが、オンエア直後から「突風」のような追い風が吹いて、しっかりと地に足をつけた活動を心がけて、吹き飛ばされないように気をつけています。

—そのような注目のなか、上記中東2言語に加え、トルコ語を加えた「中東3言語」企画が2021年から始まります。こちらの企画を試みようと思った切っ掛けなどありましたら教えてください。

（取材者の）富澤さんの一言です。「トルコ語が加われば、中東の主要な3言語のおはなし会ができますね」という言葉を真に受けて、各国大使館とパイプがつながっている「一般社団法人国歌の輪」代表の浅見さんにもちかけたところ、トルコ大使館に伝手があると即答されて、それなら行けるとこまで行こうと思いました。何よりも、絶対にほかではできない企画だと思いましたし、「文化」を通して、世界への理解の輪を広げるという考えに合致すると思いました。



2021年「中東3言語」ペルシャ語



2021年「中東3言語」トルコ語



2021年「中東3言語」アラビア語

（取材者注：2021年はコロナ禍による行動制限中であり、おはなし会はなく展示のみで開催）

—この「中東3言語」の後、トルコ語おはなし会が単独開催されました。開催に至るまでのエピソードをお聞かせください。

2022年9月に多目的ホールで、「中東3言語のおはなし会」を行った時に、齋藤さんのトルコ語の読み聞かせがとても心地よかったので、2023年1月のおはなし会にスカウトしました。



2023年トルコ語のおはなし会

—一般的に難解言語と言われる中東言語に触れた子たちの反応などをお教えてください。

前述しましたが、アラビア文字の魅力にとりつかれて、終了時間を過ぎて、いつまでもアラビア文字で文字を書きたがっていた子がいたことが印象に残っています。



アラビア文字で名前を書いてみる

—上記3言語は定期的ないし不定期に継続されている企画です。なぜ継続が可能なのでしょう。

3言語の話者の熱意だと思います。

—他中東言語のイベントがありましたら教えてください。

2019年12月に、イランの文化を知っていただくという趣旨で、イランの有名なおまつり「シャベ・ヤルダー」についての講演をしていただいたことがあります（「イランの冬至のおまつり “シャベ・ヤルダー” を知ろう！」）。それから、コロナ禍で、対面でのイベントが中止になった2020年には、イランの絵本の展示（「お国はどちら？地球です～のぞいてみよう、ペルシャ語のせかい～」）、イランの街の様子を紹介した写真展（「写真展 ～とあるイランの街の一風景～」）を行ったことがあります。



「シャベ・ヤルダーを知ろう」



イランの写真展

—今後、大久保図書館の企画に加えたい中東言語がありましたら教えてください。

クルドの難民の方が、たいへんな状況にありますので、可能であればクルド語に関連した企画を視野に入れています。

—中東言語だけでなく、日本国内では話者数の少ない言語協力者と多くの協力関係をおもちです。協力者はどのように探し、またどのような基準で選定していますか？

たとえば、インドネシア語のおはなし会は、「わたしはインドネシア語で読み聞かせができますので、もしも機会があれば協力します」と、地元の方で申告された方がいらっしました。チェコ語のおはなし会も同様です。さらに、このチェコ語の協力者からは、ポーランド語とスロヴァキア語の話者を紹介していただき、おはなし会が実現しました。ほかに、地元の NPO さんの協力から様々な言語でのおはなし会を開催しています。基準は、とにかく「おはなし会から、世界への輪を広げよう」という思いひとつです。

—最後に、これら中東言語は図書館利用の子ども達にどのように受け入れられているでしょうか。

これまでもアラビア語の絵本の読み聞かせや、ペルシャ語、トルコ語のおはなし会を開催していますが、子どもは、たとえ言語がわからなくても、自然に絵本の世界に入ってきます。そういう意味では、絵本には国境がないということを強く感じています。

（取材者富澤の感想）絵本には国境がない。これは国境問題で悩む多くの人々にとって希望の言葉になります。第一次世界大戦後、英仏の介入により無思慮に引かれた国境線は多くの悲劇と不条理を生み、解決の目途がたたないまま次の国境問題が生まれ負の連鎖がとまりません。

しかしながら、欧米列強が分割できなかったものがあります。それは、米田氏が繰り返し語った「文化」です。そしてその文化を多くの子ども達に伝えようとする「熱意」は誰にも分かつことができません。むしろ一つの言語話者から次の言語話者をにつなぎ、大久保図書館の「おはなし会から、世界への輪を広げよう」という意思で、国境を越えて人々は文化理解を介してつながれます。チェコ語の協力者からポーランド語とスロヴァキア語の話者につながったように、中東3か言語話者が大久保図書館に集まったように。隣接する文化言語を紹介し合いつながることは、相互理解と相互尊重を生みまします。大久保図書館はこれら多くのつながりを、更に結び大きな輪に広げるコミュニティのハブなのでしょう。

そして国際問題においてネガティブイメージがつきまとう中東諸国の言語であっても、絵本の挿絵から自然にその世界に入り込み未知の文化に興味を持つ子ども達を見ると、中東と日本の間を隔てるヘイトを乗り越えつながれる未来を予感できます。

次の中東言語のおはなし会は2026年8月29日、毎月第三週もしくは第四週に定期開催される「2ヵ国語おはなし会」のなかで、ペルシャ語翻訳家愛甲恵子（あいこう けいこ）氏がペルシャ語絵本の朗読をしてくださいます。

小さな方も大きな方も、日本人もあらゆる国の方々も是非お越しくださいませ。

米田雅朗（よねだ まさお）氏略歴

新宿区立大久保図書館 館長

1964 年東京出身。出版社営業職を経て、2007 年より公共図書館に勤務。2011 年より現職。

在住外国人が多い地域に所在する大久保図書館にて、「多文化サービス」を推進し、外国語資料の収集、多言語による絵本の読み聞かせ、外国人への日本語支援をはじめ、外国人と日本人が交流するような様々な事業に取り組んでいる。

（協力/写真提供：新宿区立大久保図書館）

富澤規子（とみざわのりこ）

Ahram Canadian University（エジプト）言語翻訳学部日本語教師。エジプト文化省立大学学校アカデミー・オブ・アーツ（Academy of Arts）大学院にて民俗学準修士号取得。いたばしボローニャ絵本館翻訳おはなしボランティア。おはなし会シリーズに 2015 年から「アラブのヤシの木（新宿区立大久保図書館主催）」講師。アラビア語絵本紹介活動についての執筆に、エジプト国立書籍資料館（国立図書館）『児童文学—研究と調査』30 号掲載「アラビア語児童文学絵本について東京での紹介活動を通した私的試み」

原題"تجربتي مع أدب الطفل العربي من خلال نشاط تعريفني في طوكيو عن الكتب المصورة العربية لأدب الطفل العربي"
などがある。

